

地域力を生かす子育ての“わ”づくり研究事業



滋賀子育てネットワーク

滋賀子育てネットワークとは

- 1997年創立、13年目
転入ママの育児サークル交流会がはじまり
- 子育てがしんどいのはなぜ？
子育て支援・少子化問題のさきがけ
→社会にママ声を
- 今現在の主な活動は
「当事者の声を社会に届ける」
「当事者の交流や学習の場を提供」
- メンバーはNPO、サークル、支援者(職員)等

守山市周辺で、公園などにでかけて預かり保育をする 「青空保育 まつぼっくり」





NPO法人子育て ネットワーク志賀 「うりぼう」

↑つどいの広場
「にじっこ」
(大津市志賀地域)

里山保育→
「きらきら」



水口町の空き店舗を活用した新しいタイプの拠点 「コミュニティカフェ アプリコット」



親子カフェ風
子育てひろば



▲地元の情報を発信

今、なぜ子育てに支援が必要？

- 出産前後はそれまでと環境が変わり、突然「所属」がなくなる
- 孤立と不安を抱えて一人で育児を担う母親「カプセル育児」が虐待やうつを招く
- 自分の母親しか知らない子/我が子しか知らない親→コミュニケーションや群れの不足
- 幼稚園・保育園入園まで・または職場復帰するまでの親子の「居場所」「所属」さえあれば・・・「社会で子育てを支える」

点在する地域の子育て支援の「資源」

- 13年前と比べ、支援の数は格段に増えた
- どこがやってる？
子育て支援センター・つどいのひろば・社協・公民館・保育園・幼稚園・自治会・NPO・企業…
- どんな内容？
イベント中心・ひろば的居場所づくり・子ども向け・親向け・講座・交流・環境・食育…
- 本当に必要な支援が揃い、必要な人に届いているのか？

地域力を生かす子育ての“わ”づくり研究事業

- 期間：08年10月～10年3月
- 事業目的：
就園前の子育ての親（特に在宅にて昼夜子育てを担う母親）が抱く孤立感・不安感・負担感の緩和を目指し、地域が有する子育て支援の資源を活かしながら、地域全体として親子を支え見守る仕組みづくりを検討する。
- 実施地域：甲賀市水口町周辺

地域への誘い出しの仕組みづくり ～地域子育てマネージャー事業～

- 「地域の子育て情報」の発信
- 子育て支援に対する親の声聞き取り調査
(アンケートの実施)
- 支援の場に出かけていくきっかけ(仕組み)づくり～「わたしの保育園」登録事業等の試行
(イベントや講座を行い、一歩踏み出すのを躊躇しているママを支援につなげる)

子育て支援にかかる地域のネットワークづくり ～子育てコーディネーター事業～

- 地域の”宝（子育て支援の資源）さがし”事業
- 地域子育て支援者学習交流会

子育て支援に関わる人材の育成支援

- 子育てサポーター交流会の実施



(上)少人数での講座。親子の交流重視 (下)親子コンサート。多くの親子対象に場をPR





地域で活躍されている方とのコラボ講座/サポーター交流会

事業の成果と考察

- NPOが担ったことで、縦割りや団体ごとの活動に横串をさすことができた。
また、必要な事業を「すばやく」「柔軟に」「団体の判断で」実施することができた
- 「親子」の立場に最も近い支援者（スタッフ）が事業を行うことで、ニーズに沿った支援の提供ができた
- 反面、他の支援との連携の難しさ、市政の流れと外れた活動などの問題点もあった

今後の展開

- 今回の研究事業を一例とし、今後県内の市町に事業を広げていくことが大切
- 地域の特性（湖南と湖北、従来住民地域と流入住民地域など）や支援資源を考慮し、地域の中の中の部分が「子育てマネージャー」や「子育てコーディネーター」の中心を担うか
- 既に動き出している地域資源を中心としたボトムアップ型ネットワーク（地域協議会）の形成＝地域力を生かした子育ての“わ”づくり

ちょっとの応援で親も子も元気に！

親も子も社会に出て行く「う・関わろう！」



社会は「子育て」に関心を持とう！